

週刊

# こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎(752)0453 小林えみ子 ☎(482)5451

発行

日本共産党  
八千代市議会議員団

八千代市大和田新田  
312-5

☎(483) 1151

## 秋葉市長の「財政リスク回避戦略」を批判！

日本共産党の堀口明子議員は9日、代表質問を行い、市長提案の「財政リスク回避戦略2014キックオフ」の問題点を指摘し批判しました。

八千代市は前市長以来、くらし・福祉の向上より「人口呼びこみ策」と称して開発・公共事業優先の施策を続けてきました。「新川周辺地区都市再生整備計画」もこの一環です。その結果、莫大な借金（800億円）をかかえ財政危機に陥っています。「財政難」「市民1人当たりの借金は40万」、学校のトイレが・・・公民館の備品が・・・と修繕の要望があっても「お金がないから仕方がない」と市民は我慢するしかない。と思わされています。

秋葉市長は7月28日、「財政リスク回避戦略2014キックオフ」を発表しましたが、その内容について指摘と質問をいたします。

秋葉市長から一方的に市民に対して負担増かサービス切り捨てかの2者択一を迫る、どちらも市民にとっては不利益を受ける問題を素直に受け入れることはできません。

## ハコモノ推進への反省も自覚もない秋葉市長

財政の現状から見れば「財政の立て直し」は必要です。しかし、この状況を生み出してしまった市政運営をしてきたのは誰でしょうか。前市長以来の箱モノ優先の市政に責任があり、それを承認してきた議会の責任も問われなければなりません。

しかし、「新川ハコモノ計画は凍結、中止を含む大胆な見直し」を公約して市長に当選した秋葉市長の責任と反省がない「キックオフ」をそのまま受け入れることはできません。

現市長として自らの責任を明確にし、その反省を行うべきですが市長の認識をお答えください。

**秋葉市長：・公共施設の新規投資が優先されてきたことが要因**



今の答弁にありました、公共施設の新規投資優先は、新川箱モノ計画のことですよね。止められたはず。止められた立場にしながら止めなかった責任と反省を教えてください。

## 根拠のない借金依存の体質を批判していた秋葉議員

25年度予算に対する反対討論で秋葉議員は、「総合グラウンドのほうは、地盤改良と本体工

裏面に続く→

事が分かれていますので、どれぐらい地盤改良に使おうとしているかというのが見えるわけですが、図書館のほうは、それが地盤改良工事という形はとっていないために見えないわけですが、建物の建設単価としてはこの八千代市でもなかったような。緑が丘図書館の建設単価が確か平米でも20万円前後とか、坪でも50万円前後、60万円ぐらいとかそれぐらいの金額だったと思います。それと比べると甚だしく高額な建設単価でつくろうとしているということに関して、私たちが資料提供も受けずに、これをそのまま認めてもいいのでしょうか。この増額分も国の交付金対象ではなくて、市の一般財源、起債等で賄って、利息もつけて返済しなければならない。そのことに対して、ここにいる私たち32人の議員が本当に自信を持って責任を負えるということであれば反対すべき」と討論しています。

秋葉市長として、市民との公約を裏切り、ハコモノを推進したことへの責任と反省を市民に示すべきです。そのことがなければ、市民の協力を得て、財政再建を進めると言っても誰が本気にするでしょうか。

## 最初から「サービス低下ありき」のアンケート



「公共施設再編に関する市民アンケート」では、サービス切り捨ては当然である。という立場で書かれています。

たとえば「公共施設の削減」を市民自らに施設を選ばせる。「近い老朽化した施設か遠いけど新しい施設、どちらを選ぶ」というやりかたは市民の合意を得られるとは思いません。

事業仕分け、使用料の見直し等は、現在の状況に陥った負担増のツケを市民に押し付けるやり方はすべきでないと思います。また、市民に選ばせる。市民が選んだ結果という「市民への責任転嫁」を押し付けてやるやり方はすべきでない。

**秋葉市長：・孫子に負担を押し付けない。・最終責任は自ら**

その最終判断は自分でと答えています。が、「アンケートの結果、市民のみなさんの意見が一番多いものを選んだ」となれば、それは市長が選んだとはなりません。どのように自分で責任をもって決定するというようになりますか。

市長は、子どもや孫に負担を残さないと言いますが、市長選挙の時にはすでにその状況であったことは市長がご存知でしょう。なぜ、立候補したのか、財政悪化を止めたいと言っていたよね。その後1年間で借金を増やしてきた責任も反省もなく、財政危機のツケを市民に一方的に押し付けるやり方はゆるせません。

「児童福祉・高齢者福祉はそれなりに手厚い市民サービスを展開してきた」と市長は言っていますが、これらがこののち削減されるかもしれない。という不安を現在市民にあたえてしまっていることをしっかり認識すべきです。

